自然エネルギー:ミニ学習(71)　私たちの地域の電力の略史

文責　宮井

(一)地域の電気の歴史を語る冊子

電力自由化が始まり、2020 年には本格的な送配電の分離も予定されています。ここで昭和 45 年(1970 年)に発行された「武蔵府中の電力史」という冊子をもとに私たちの地域の電力の歴史の一端を簡単に辿っておきたいと思います。

(二)黎明期

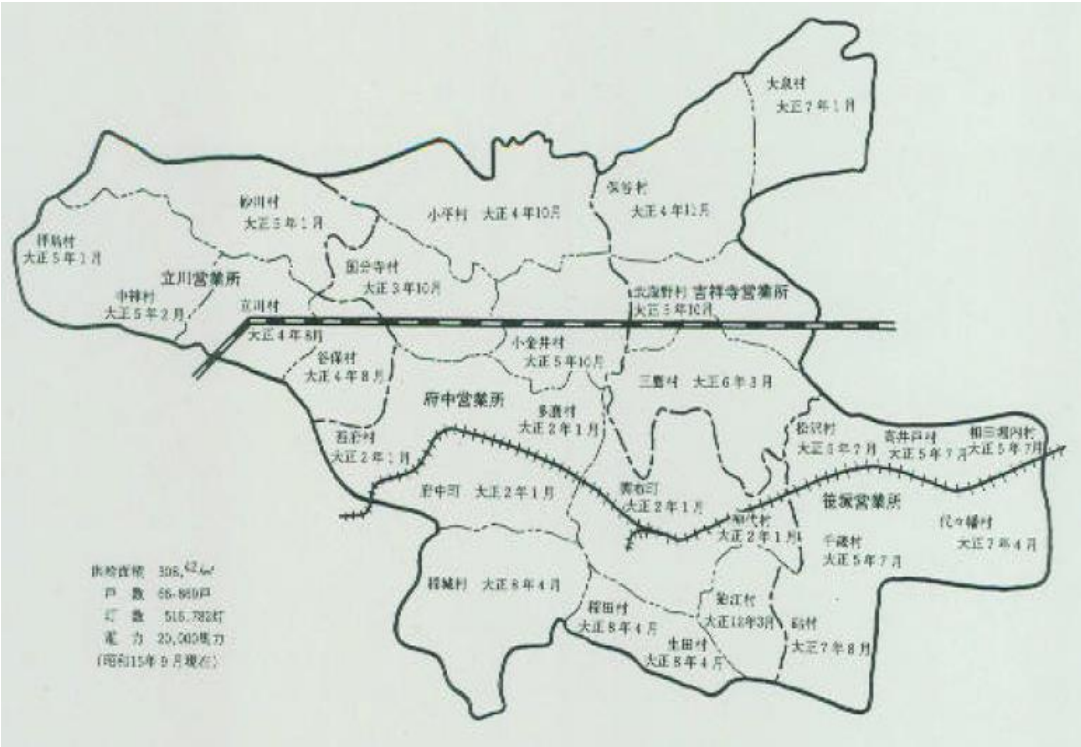
明治 11 年に日本で初めてアーク灯が点り、明治 19 年に東京電灯株式会社が出来ました。

明治 43 年に**京王電気軌道**(株)が設立され、翌年電気事業法が制定され、明治 45 年に府中火力発電所(55kW)が建設され、軌道工事が進むとともに大正 2 年にようやく電灯の供給が始まりました。軌道工事とともに配線工事が進んだのです。

	調布町	多磨村	府中町	西府村	合計
供給戸数	234	32	340	5	612
供給灯数	492	44	841	10	1387

発電には焼玉エンジンが用いられ、よく故障しましたが人々はランプ生活から解放されてゆきました。この年、木製の 40 人定員の四輪電車が固唾を飲む人々が見るなかを滑り出し、「文明開化」を実感し、大宴会で祝ったといいます。室内灯の一番小さいもので「5燭光:月額 55 銭」が当時の電気代です。大正 15 年には八王子まで開通しました。

この間に武蔵野、神代、小金井村(大正 5 年)、三鷹村(大正 6 年)など現在の中央線方面に電気供給が広がりました。供給の過当競争を防止するために東京市、東京電灯、日本電力に合併が進んだといいます。大正 11 年東京電灯立川変電所から 500KW を受電するようになっています。大正 12 年 9 月 1 日の関東大震災では停電しましたが 6 日には復旧しています。大正 12 年にはこの地域は石油ランプを使う人はいなくなったといいます。



京王電気軌道と周辺への配電

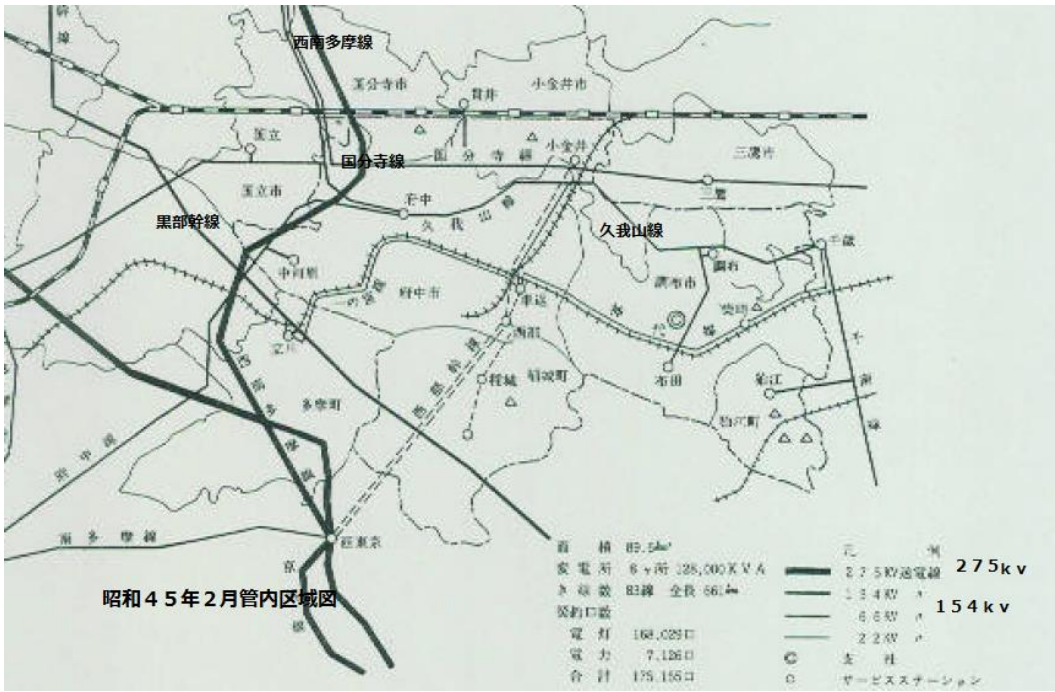
（三）発展と戦争の時代

昭和に入り 3 年にようやく昼夜送電が始まる一方、変電所が増えました。軍需産業の需要増で昭和 14 年に国家管理の実施で「日本発送電」（株）が設立され、昭和 17 年には京王電気軌道の配電部門が分離され 11 社の合併により**「関東配電」**となりました。配電統制、需用規制強化で軍 100％、平和産業 30％に制限され規制が撤廃されたのは敗戦後です。

戦後の需要増で電圧低下、緊急停電が頻発しました。電力危機突破が叫ばれ、「日本発送電」が解散され事業再編成で 9 電力体制になったのは昭和 26 年です。

（四）東京電力の時代

昭和 26 年 5 月 1 日に「関東配電」は「東京電力（株）多摩支店府中営業所と名称変更して従業員 111 名で「東京電力」になりました。昭和 27 年に電源開発（株）が設立され、広域送電網が整備され、昭和 33 年（1958 年）には只見幹線（西南多摩線）が完成し、遠く福島県の田子倉発電所からの電気がやってきました。変電所とサービスステーションが増えてゆきました。鉄塔オタクたちが種々の形をした鉄塔を追いかける時代になりました。更に西のほうには黒部幹線がかなり前から走っています。府中市の周辺では久我山線、国分寺線といった 6.6 万 V の電線が走っています。



（五）送電線に思う

この冊子に書いてあることではありませんが、只見幹線の敷設で南越谷から町田市の西東京変電所までに 110 基の鉄塔を建設するにあたっては、府中市、国分寺町（当時）、国立町（当時）の住民が「住宅地としての発展が阻害される」として反対したことがありました。測量ができず強制買い上げか否かで新聞記事にもなりました。今後、発送電の分離などが予定されていますが、多くの住民が協力して建っている鉄塔を思うとき、「これは公共財といってもよいのでは」ということです。たまに鉄塔が大きく走る風景を高いところから眺めてみましょう。

（六）参考

①冊子「武蔵府中の電力史」 ふるさと府中歴史館所蔵
②http://transmltkbr.sakura.ne.jp/soudennfz00.html 送電鉄塔見聞録のホームページです